



→台風15号は大雨を降
らせた。今年2度目の洪
水で河川敷は水没した。
川面に映る夕日のなん
ともきれいなこと。当
然、渡し舟は運休だ。

↑9月22日、台風一過。久しく忘れていた言葉を思い出させてくれた。この青空も午前中だけ。午後からはまた雨だった。変な天気！！

大舟頭の杉浦正雄さん（八十五歳）
が亡くなって三年目になる。

葬式仏教でいうところの三回忌だ。
春秋の二回とお盆、それに葬式に四十
九日に一周忌に三回忌、七回忌、十三
回忌と、お布施を払う。銀行の利息で
さえ、こう確実にはいつてはこない。

これが定着したのは江戸時代に檀家
制度ができて以降だそう。それに、
寺が戸籍を管理するようになってから
ますます寺側が力をつけてきた。先祖
供養もそのひとつだ。

いま墓石を見ると、たいてい江戸時
代以降だ。大名墓などのように、供養
塔のような墓石は年代の知れないもの
も、あるにはある。だがそれらには、
たいてい名前や戒名などは刻まれてい
ない場合が多い。

「なにがしたいの？」

いぶかしげな顔で舟頭さんがいう。

杉浦家の墓には、墓石のほか、戸
籍のように亡くなった人の年月日、氏
名を刻んだ、わけのわからないものが
添えてある。この個人情報保護法が成
立施行されている時代に。

こんなところに法律を持ち出すのも

今週のクマ

→クマはゴロゴロが好きだ。先の洪水でクローズになったゴルフ場に放されると、グリーンにかけ上がり、寝転がってズリズリする。官能的なこの表情。



↑蜘蛛はなぜ下向き。引力を利用して上から下に向かって獲物を捕るためとかいうが、私は大粒の雨が降っても窒息しないためだと思う。獲物を捕らえた蜘蛛。

どうかとおもうのでやめる。

「実際、めんどうだよね。坊主を呼んで親戚を集めて、家では手狭だからと料理屋だとか会館などを借りてさ……」

しかし、矢切の渡しの杉浦家ともなると、世間が放っておかない。田舎などでは親戚もうるさい。

たぶん、めんどうがらずにほくそ笑んでいるのは坊主くらいなものだろう。

釈迦は弟子に尋ねられてこういった。

「僧侶は遺骸の供養等考えず真理の追求に専念すべきだ。供養は在家の信者がしてくれらる」と。

坊主の力がまだ強くなかったころ、両墓制度というものがたつた。つまり、ふたつの墓があつたという。埋め墓といって遺体を埋葬する墓と、詣り墓といって遺体のない詣でるための墓だ。

これを現代にあてはめると、遺骨を納めたからといって、かならずしも、そこに墓参りに行かなくてもいいということになりはしないか。

「ああ、それは便利だね。一族に墓はひとつでいいもの。核家族がそれぞれ墓をつくってたら最後は墓だらけになるよ」

さすがに若舟頭ぐらいの年代はそういう考えになるようだ。

彼岸花墓場は死体の捨て処